

安達	8名	東白川	3名
郡山	17名	石川	3名
岩瀬	3名	田村	7名
南会津	6名	いわき	22名
北会津	8名	双葉	1名
耶麻	4名	相馬	6名

④ 男女別、年令別内訳

年令別	男女別		計
	男	女	
20才～29才	11名	7名	18名
30才～49才	36名	29名	65名
50才 以上	48名	5名	53名

⑤ 教育モニターの決定

6月13日の定例委員会によって下記の各代を教育モニターに委嘱することに決定した。

昭和41年度 教育モニター名簿

番号	氏名	年令	職業	住所
1	田中 英男	47	KK中板金塗装店代表社員	いわき市新平川町18
2	室井 辰辰	62	会州ホンダ自動車販売KK社長	会津若松市東栄町 221
3	中野 渡義	61	会津漆器考案保護委員会審査員	会津若松市一箕町蚕養 269
4	牛渡 倫整	69	農業協同組合職員	原町市東町1-1
5	田母 神勇	54	農 業	郡山市田村町守山字大町77
6	成田 嘉明	57	農 業	河沼郡会津坂下町金山字東村
7	目黒 殖二	63	農 業	南会津郡只見町大字只見字原
8	佐藤 啓和	59	農 業	耶麻郡山都町大字木幡字土井内
9	緑川 善一	35	呉羽化学工業KK錦工場	いわき市植田町堂ノ作21の2
10	佐藤 昭治	24	協三工業KK	伊達郡桑折町松原堰下
11	星 正隆	65	学習研究社東北第三支社	福島市南沢又字東谷地47
12	大槻 善隆	37	ヤマボン醬油合名会社	白河市年貢町74
13	小貫 正博	51	酒販売業	双葉郡富岡町大字小浜字駅
14	石田 善吉	40	NHK福島放送局放送副部長	福島市宮下町11-25
15	山崎 代英	54	富田小学校教頭	郡山市池ノ台9-18
16	田代 善英	31	岩瀬中学校教諭	須賀川市仁井田字南町28
17	菅野 竜平	40	福島高等学校教諭	福島市南沢又字道合
18	龍川 清子	47	会津短期大学教授	会津若松市屋敷町22
19	忍山 多嘉	46	主 婦	いわき市常磐湯本字下浅頁
20	堀越 フミ	45	主 婦	安達郡本宮町荒町12
21	木幡 枝子	56	主 婦	田村郡三春町大字過足字館
22	足立 立子	30	主 婦	郡山市安積町笹川字鶴巻田
23	関本 本子	21	福島大学教育学部学生	福島市上浜町78の1
24	鈴木 木子	20	福島大学教育学部学生	福島市船場町4-30
25	吉成 成章	42	そ の 他	東白川郡塙町大字川上字東平
26	小豆 畑治	58	そ の 他	石川郡石川町字下泉 145

⑥ 報告を求めた事項

第1回 文書報告(41. 7. 15)

補習授業についてどう考えるか。

教職員の名誉と品位の確立について

2回 文書報告(41. 10. 15)

本県における芸術文化の振興について

本県におけるスポーツの振興について

第3回 口頭報告(42. 1. 6)

昭和42年度の教育行政に期待するもの

⑦ 報告の結果と処理

上記の報告事項に対して教育モニターから寄せられた意見は、いずれも教育の振興充実に期待をかける声ばかりで行政関係者、教育関係者に深い感銘を覚えるものばかりであった。

県教育委員会は、この意見を「教育モニター報告結果の内容」B5版52ページにまとめ、1月31日、2,100部印刷配布した。

配布先は、教育事務所、市町村教育委員会、小中高等学校、市町村長、市町村公民館に送付し、明年度の施策の立案にあたって参考に供していただくことにした。

また昭和42年度の県教育委員会の努力目標の設定にあたって、この意見も参考に於て立案した。

第6節 調査・統計

昭和41年度に調査係の計画実施した事業は次のとおりである。

なお学校基本調査については、県統計課に協力した調査であるが、その結果より「学校統計要覧」を刊行し、広く活用の便を図った。

1 学校設備調査(指定統計第74号)

(1) 調査の目的

この調査は、昭和41年度に理科教育設備の基準が改訂されるにあたって、その新基準と旧基準の両基準に対する設備の充足状況を明らかにし、これら設備の充実のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

(2) 調査の内容

① 調査期日

昭和41年4月1日現在

② 調査範囲

公立および私立の小学校・中学校・高等学校・盲学校・学校・ろう学校および養護学校

③ 調査事項

ア、学校名 イ、学校の所在地 ウ、設置者別 エ、本校または分校の別 オ、学校の規模別 カ、課程別 キ、へき地学校指定の有無 ク、理科教室等の設備状況 ケ、理科を担当する教員数 コ、実習助手(理科)の数